

スリランカ民主社会主義共和国  
ペラデニア教育病院実施協議  
チーム報告書

昭和56年3月

国際協力事業団

医 二

~~XXXXXXXXXX~~

80-25



JICA LIBRARY



1026980[1]



スリランカ民主社会主義共和国  
ペラデニア教育病院実施協議  
チーム報告書

昭和56年3月

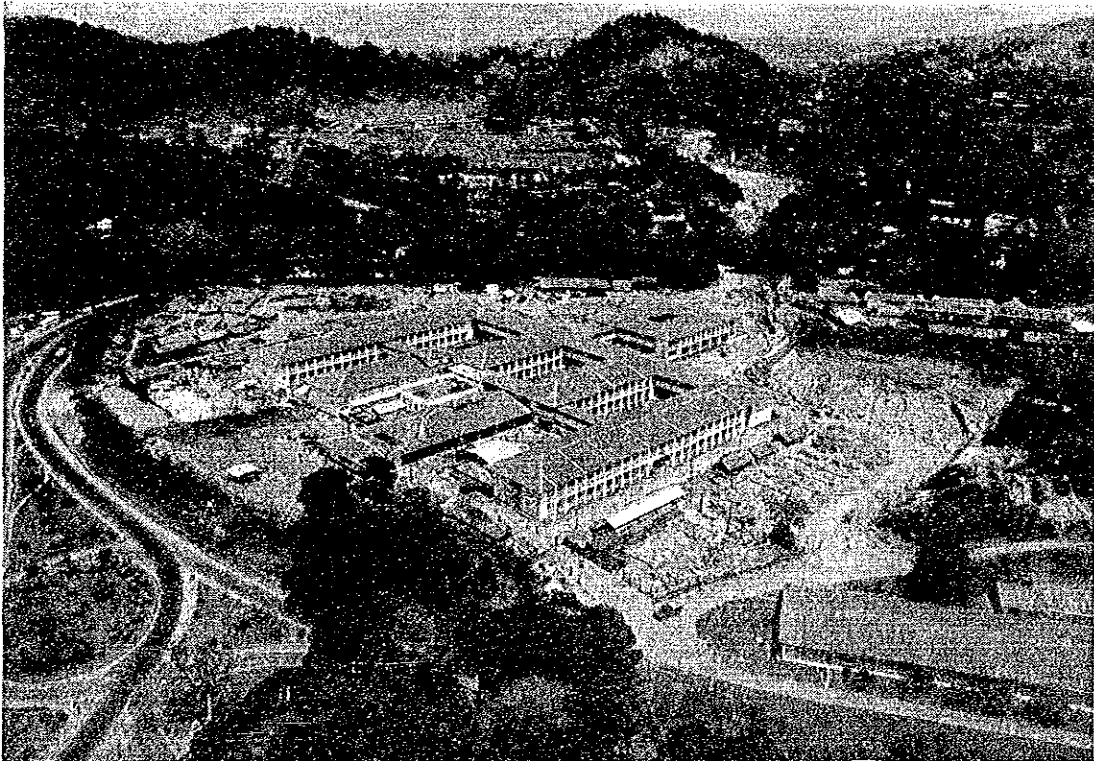
国際協力事業団

國際協力事業団	
受入 月日 84.8627.2	12070
登録No. 14100	9520 MCS

R/D 署 名



ペラデニア教育病院全景







## は　じ　め　に

昭和53年10月の事前調査チームのプロジェクト方式技術協力の可能性ありとの報告結果をふまえ、さらに協力内容を具体化するため、本件調査チームが派遣された。

その結果、スリランカ国においては、ペラデニア教育病院の機能の強化に焦点をあわせて技術協力を行なうことにより、同国の母子保健問題の改善に寄与する目的で保健・医療協力を行なうこととなった。今回の実施協議チーム派遣により医療協力実施の第一歩を踏み出すことができたことに対し、関係者各位、特に慶応義塾大学医学部のひとかたならぬ御尽力に対し深甚なる謝意を表したい。

最後に、当該プロジェクトに対するスリランカ国政府の大きな期待に応えるべく今後共一層の協力を関係各位にお願いする次第である。

昭和56年 3月

国際協力事業団  
理事長 長谷川 正 男



# 目 次

写 真

は じ め に

I	実施協議チーム派遣の経緯	1
II	実施協議チームの編成と調査日程	1
III	調査要旨と結論	2
IV	討議々事録署名に到るまでの経過	3
V	Record of Discussions (討議議事録)	11
VI	技術協力	24
1	産婦人科部門	24
2	小児科部門	26
VII	資 料	29



## I 実施協議チーム派遣の経緯

1977年3月末、在日スリランカ大使から、わが国に対して、スリランカ大学医学部（ペラデニア）第二教育病院に対する協力要請がなされた。かかる要請を受けて52年6月23日から7月5日まで慶応義塾大学医学部教授他2名が施設建設の無償資金協力、医学部への技術協力の予備調査チームとして派遣された。この調査に基づき教育病院に対する無償資金協力による施設建設が行われた。今回の実施協議チームは、昭和53年10月の事前調査チームのプロジェクト方式技術協力の可能性ありとの報告結果をふまえ、協力の内容、場所、規模、期間、双方がとるべき措置、付与される特権免除等につき、スリランカ国関係機関と協議し、さらに協力の関連事項について調査を行ない、協力の基本計画を作成するとともに、これらをスリランカ国関係機関と討議議事録としてとりまとめ署名せしめるため、派遣された。

## II 実施協議チームの編成と調査日程

### (1) 調査チームの編成

団長（総括）	飯塚理八	慶応大学医学部産婦人科教授
小児科	老川忠雄	慶応大学医学部小児科講師
産婦人科	河上征治	慶応大学医学部産婦人科講師
計画調整	佐伯修	国際協力事業団医療協力部医療第二課

### (2) 調査日程

2/25(月)	東京16:15	BA36A
26(火)	コロンボ1:30	大使館打合せ・保健省表敬及び打合せ
27(水)		保健省R/D等協議
28(木)	コロンボ → キャンディ	ペラデニア教育病院視察・打合せ
29(金)	キャンディ総合病院視察	キャンディ → コロンボ 保健省協議・R/D署名
3/1(土)	コロンボ郊外視察	
2(日)	内部打合せ及び資料整理	
3(月)	コロンボ11:07	SQ49 → シンガポール 着16:30 J1712 発20:15
4(火)	東京16:00	

### III 調査要旨と結論

スリランカ国ペラデニア教育病院（仮称）の協力内容、規模、期間、双方が取るべき措置、付与される特権免除等につき、スリランカ国内関係機関（保健省、高等教育省、スリランカ国の日本大使館）と協議し、さらに協力の関連事項につき調査を行ない、協力の基本計画を作成すること。一方それらをスリランカ国内関係機関と討議議事録としてとりまとめ署名せんとして実施協議チームが派遣された。

チームの編成は飯塚理八（団長）、老川忠雄（団員、小児科）、河上征治（団員、産婦人科）、佐伯修（団員、JICA）の4名で飯塚団長が本調査の総括、老川団員が新生児、小児科関係、河上団員が産科、婦人科関係、佐伯団員が計画調整として9日間の日程内にRD署名を目標にスケジュールをたてた。

まず日本大使館の協力を得て本プロジェクトのスリランカ側窓口の責任者である保健省次長（Dr Fernando）と会見し、RD内容につき各項目毎に問題点、文体を検討した。

問題点の一つは技術協力の内容が、スリランカ側は研究、教育を主眼としたものではなく、日常の臨床に対応したものを期待していること、その二は、本プロジェクト運営におけるComitteeのメンバーの人選（保健省と高等教育省と両者から本プロジェクト関係の人事は行われるわけであるが、両者にいまだその運営方法に完全な合意をみていない）、第三は技術協力の諸設備、器機のメンテナンスの問題と実際に日本側からの技術指導の方法論とその受け入れ体勢であった。

これらはすべて当初我々日本側が教育病院としての技術援助を想定していたことに対しスリランカ国保健省が国情にそった母子保健臨床のための援助を強調する見解の相違であった。我々としても少なくとも相手国の事情を尊重し、それ以上の干渉をするつもりはない。

しかしスリランカ国内においても保健省関係者と高等教育省関係との間に今なお本プロジェクトへ期待する視点にズレがあり、両者間に熱いディスカッションがつづいているのは事実である。日本側としても本プロジェクトに当初企画したペラデニア大学病院の産科新生児管理の教育という原点を無視はできない。これらをふまえて我々はペラデニア建設現場へ行き、完成真近の新病院の進行状況の視察と実際にその病院の運営の中核となるであろうペラデニアキャンパスの医学部幹部とキャンディーホスピタルの産科小児科の医長クラスを招待して本プロジェクトについてフリートーキングの会をもった。

視察の結果は、新生児ユニットと小児科外来病棟関係、産科管理部門、婦人科関係についてはそれぞれ担当の団員から報告する通りである。また、臨床、教育の充実のために、Central Hospitalとしての機能を保ちながら本病院をランさせるために最低の必要事項の追加をチェックしてきた。

その夜の団長主催パーティーには地元幹部（ペラデニアキャンパス医学部長、前キャンディーホスピタル院長一現、当プロジェクト病院準備委員長はじめ、キャンディーホスピタルの医長連計8名）が出席し、数カ月後に開院するこの新病院のあり方についてそれぞれの立場で意見を述べ有意義な会

となった。

高等教育省関係者は大学病院の産科、小児科の教育、研究のための技術援助を熱心に強調していた。一方保健省関係者は臨床活動の機能が限度となった古いキャンディーホスピタルにかわってこの新しい病院に市民病院の延長として大きな期待をもっていると語っていた。

我々はその両者の主張を可能なかぎり解析し、臨床に直接結びつく技術協力の計画をしてきたつもりである。

しかし新病院の院長はじめ各部門の責任者の人事は現事点でも決っておらず、その準備と打合せは不可能である。したがって日本からの技術協力が円滑に施行されるためには、その人事が決定後、まずスリランカ側から各科の責任者に日本の母子保健管理の現状を視察してもらい、日本が行おうとしている協力計画の実際とスリランカ国での臨床応用への価値感を検討したい。次で日本から専門家を派遣することが良策と考えている。

以上我々はスリランカ国の医療事情を理解し、一日も早く本プロジェクトを軌道にのせるべく、2月29日保健省次官、B. C. PERERA氏とR. Dのサインを行った。

#### IV 討議々事録署名に到るまでの経過

##### (1) 出張報告書

期 間 : 昭和54年10月28日～11月4日

案 件 : スリランカ国ペラデニア教育病院技術協力プロジェクト

出張者 : 国際協力事業団医療協力部

医療第二課長 伊藤雅治

##### 目 次

- 1 日 程
- 2 技術協力プロジェクトの目的及び対象について
- 3 プロジェクトのActivityについて
- 4 調整委員会の設置について
- 5 業務上の国内旅費及び住居の提供について
- 6 日本人専門家に対する負責条項について
- 7 実施協議チームの派遣について

1 日 程

10月29(月)

11時 コロンボ着(SQ581)

13時 大使館表敬及び打合せ

浅見臨時代理大使, 鈴木二等書記官

15時 保健省あいさつ及び日程打合せ

Dr. S. M. D Fernando (Deputy Director), 鈴木書記官同行

10月30日(火)

10時 保健省にて協議

Mr. B. C Perera (Secretary, Ministry of Health)

Dr. S. M. D Fernando

10月31日(水)

8時 高等教育省にて協議

Prof Stanly Kalpage (Secretary, M. of Higer Education)

Dr. Fernando 同席

10時30分 財務計画省にて協議

Mr. Ronnie Weerakoon (Additional Director, External Resources  
Division, M. of Finance and Plann

DR. Fernando 同席

15時30分 保健省にて協議

DR. S. DM. Fernando

Prof. R. G Panabokke (Dean, Faculty of Medicine)

DR. R. C. Rajapaksa (Medical Superintendent, Kandy)

Prof. K. de Silva (Obsteftics and Gynaecology)

Prof. C. Barr Kumarakulasinghe (Surgery)

Dr. W. J. B Karwarafne (Consultant, Obstetrion and  
Gynsciologist, Kandy)

Dr. C de S. Wijsundera (Consultant, Pediatric) 鈴木書記官同席

11月 1日(木) National holiday

7時30分 保健省提供の車で Teaching Hospital, Petadeniya 見学

20時 DR. Fernando の自宅へ招かれる。

11月 2日(金)

10時 大使館へ結果報告



- 14時 財務計画省のERDと再協議  
19時30分 大使館主催夕食会  
11月 3日(土)  
11時 帰 国

## 2 技術協力プロジェクトの目的及び対象について

本件技術協力プロジェクトはペラデニア教育病院を対象として、主としてTeaching Staffに技術移転を行なうことにより教育病院としての機能の強化を図り、終局的にスリランカ国における母子保健対策の向上に寄与することを目的とすることで保健省、高等教育省、医学部、及び財務計画省外国援助局(ERD)等関係者の意見が一致した。

但し、病院の現場では各科に教授の他に保健省から任命されているConsultantがおり、これらstaffに対してもこのプロジェクトのもとでレベルアップを図りたいので、この点について特に日本側で考慮して欲しい旨重ねて保健省のDR. Fernandoより要請があり、問題はないと回答した。

## 3 プロジェクトのActivityに関して

(1) R.Dドラフトに明記した5つのActivityに関し、胎児・胎盤機能検査、新生児管理、臨床検査技術及び要員の訓練については、保健省、大学とも異存はないが、MEの産科領域への応用については、スリランカは大変貧しい国であり、多額のCounterbudgetを要するSophisticatedなMEの応用は今後10~15年の将来においても困難であるので、in keeping with national requirementという条件を附して欲しい旨保健省より意見が出された。この点に関し、産婦人科教授のProf. K. de Silva及び医学部長にコメントを求めたところ、保健省の見解に対する反対のコメントが提出されなかった。

保健省のDR. Fernandoも研究的な意味で実施することについてまで反対はしておらず、実の段階でスリランカ国の状況を考慮しながら推めてゆけば可能と考えられる。

(2) 外科の教授より、小児外科をActivityに追加して欲しい旨要請があった。この点に関し、DR. Fernandoの意見を求めたところ、大学側の意向が小児外科を希望するのであれば保健省としても大学側の意見を支持し、日本側に要請したいので考慮して欲しい旨発言があった。これに対し、小児外科は実施に非常に高度な機器を必要とし、かつ日本の医科大学でも独立した小児外科の教室を持っているところは限られている現状を説明し、要請に応じることは困難と判断するが、この点については本件プロジェクトを支持して下さっている飯塚教授の意向が鍵となるので、帰国参同教授等関係者と可能性について再度検討することを伝えておいた。

(3) 大学の教授等から機材のメンテナンスを習得させるため研修員の受入れ、専門家の派遣を

考慮して欲しい旨発言があり、DR. Fernando もこの発言を積極的に支持したが、技術協力プロジェクトの枠組の中では困難である旨回答した。

#### 4 調整委員会の設置について

調整委員会の設置について、本件委員会は技術協力プロジェクトの円滑な実施のために両国の関係機関が集まって必要なことを検討するためのものであり、病院の運営にまで関与する性格のものではない旨、R.Dドラフトに沿って説明し、保健省、高等教育省、及び大学関係者全員にわが方提案の通り了解が得られた。

委員会の構成については、保健省次官、高等教育省次官、大学関係者の順に、いずれもDR. Fernando の同席のもとに協議を重ね、別添の通りの案が作成された。

別添の委員会の構成については、日本側としてもほぼ同意出来るものであると考えるが、外科の教授については小児外科をプロジェクトの活動範囲に含めるか否かによって、日本側としても検討を要するのでPendingとしておきたい旨回答した。臨床検査の主任教授はProf. Biochemistryではなく、Prof. Clinical Pathology であるので、委員会の構成メンバーとしてClinical Pathologyの教授を加えたい旨提案があり了承した。

#### 5 業務上の国内旅費及び住居の提供について

保健省より、スリランカ政府の採るべき措置のうち、日本人専門家の国内旅費及び住居の提供について、スリランカ側の財政事情より困難であるので、R.Dから削除して欲しい旨要求があった。この点に関し、スリランカ政府、保健省のみの問題ではないので、財務計画省の外国援助局(ERD)と協議した。この際わが方よりこの規定は日本が二国間ベースで実施している全てのプロジェクトのR.Dに明記されているものであり、削除は困難である旨主張した。仮にスリランカ側の財政事情を考慮して実質的に日本側が負担するとしても、原則的にこれら費用の負担の責任はスリランカ側にある事を明記しておきたいので、— Taking into account Local Condition and Financial Possibilities of Sri Lankan Authorities Concerned—をつけ加えることでどうかと提案したところ、日本側が実質的に負担するのであれば、将来担当者が交代した時にR.Dの解釈に食い違いが生じないように、あいまいな発言は避けて日本側が負担すると明記して欲しいと要求され、非常に苦しい立場に立たされることになった。10月31日のERDとの話し合は結局平行線のまま終り、鈴木書記官と対応策を協議し、本件については大使館を通じ引き続きERDと協議する必要があるとの結論に達したので、外務省においても対処方針を在スリランカ日本大使館に訓令していただきたい。

## 6 日本人専門家に対する免責規定について

10月31日の外国援助局との協議が終り、同日午後保健省と協議をしている時に、外国援助局よりのコメントであるというDr. Fernandoより一通の書簡を受理した(別添2)。内容は日本人専門家の免責条項に関するものであり、スリランカ側のカウンタープロポーザルであった。

11月2日はNational Holidayのため、11月3日午前中に大使館鈴木書記官とも協議のうえ、この提案は日本側として受入れることが出来ないの、その旨至急外国援助局へ押返すのが適当であると判断し、11月3日14:00時に再度外国援助局とアポイントメントをとり、会談した。その結果判明したことは、スリランカ政府外務省法務局(Leagal Division)より、最近今後外国(日本のみではなく全ての援助国)と結ぶいかなる取極めの中においても、別添書翰の通りの案文をもってスリランカに滞在する外国人専門家の免責条項を規定するよう外国援助局に指示があったということである。

外国援助国が主張するには、本件については外国援助局としていかんともすることが出来ず、日本大使館とスリランカ政府外務省が直接交渉して欲しいということであった。

この結果を鈴木書記官に報告し、本件については専門家の立場としてこれ以上スリランカ側と接触を行なわないこととし、状況を帰国後外務省に報告し、その指示をおおぐという結論とした。本件については大使館を通じ、スリランカ外務省に事実の確認を行ない、正確なスリランカ側の案文と考え方を聴取したうえで対処方針を決定する必要があると判断する。

## 7 実施協議チームの派遣について

今回のスリランカ側関係当局との接触を通じて、国内旅費、住居の提供、日本人専門家に対する免責規定という問題は残されているが、これらの問題が解決することを前提として、保健省、高等教育省、外国援助局、大学とも2月の実施協議チームの受入れは異存ない旨表明された。

病院は現在3月末完成を目標として休日返上で工事を進めており、引渡後実際の活動開始は6~7月と予定されている(希望的観測の感もするが)。病院のstaffの人事については、院長等主要ポストは2~3月頃発令の予定である(厚生省DR. Fernandoの発言)。

従って、日本人専門家派遣はスケジュールが予定通り進んだとして9月以降を希望している。

スリランカに滞在する外国人専門家の免責条項を規定するよう外国援助局に指示があったということである。外国援助国が主張するには、本件については外国援助局としていかんともすることが出来ず、日本大使館とスリランカ政府外務省が直接交渉して欲しいということであった。この結果を鈴木書記官に報告し、本件については専門家の立場としてこれ以上スリランカ側と接触を行なわないこととし、状況を帰国後外務省に報告し、その指示をおおぐという結論とした。本件については、大使館を通じ、スリランカ外務省に事実の確認を行ない、正確なスリランカ側の案文と考え方を聴取したうえで対処方針を決定する必要があると判断する。

(別添1)

Composition of the Coordinating Committee

Chairman Director/Health Service, Ministry of Health

Sri Lanka Side

Japanese Side

Director/Postgraduate Institution, Ministry  
of Higher Education

Team Leader  
Experts

Director/External Resources Division,  
Ministry of Finance and planning

Representative of  
Japanese Supporting body  
an Official of Embassy  
(observer)

Dean/Faculty of Medicine

Medical Superintendent/Hospital

Deputy Director/Medical Service  
Ministry of Health

Prof/Obstetrics and Gynaecology

Prof/Pediatrics

Prof/Clinical Pathology

Consultant/obstetrics and Gynaecology

Consoltant/Pidiatrics

\* Prof/Surgery

(Pending)

විදේශීය ප්‍රවේශන විට මෙම ලිපියෙහි  
අංකය සඳහන් කරන්න.  
අනුමතයක් ලෙසින් තහවුරු කිරීමේදී  
පිටුපසට අංකය ලියා දීමට සලකුණ  
කරන්න.  
Please quote My No. of this letter when replying.



මගේ අංකය  
எனது இலக்கம்  
My No.

ඔබේ අංකය  
உமது இலக்கம்  
Your Ref. No.

ශ්‍රී ලංකා සෞඛ්‍ය දෙපාර්තමේන්තුව

සෞඛ්‍ය තාලම, ත්‍රිකුණාමලය, කොළඹ 1,  
DEPARTMENT OF HEALTH, SRI LANKA

මහලේකම් මෙහෙයුම්, ඔ. පො. 500, කොළඹ 1, ශ්‍රී ලංකා.

செயலகம், த. பெ. 500, கொழும்பு 1, இலங்கை.  
Secretariat, P. O. Box 500, Colombo 1, Sri Lanka.

දිනය/திகதி/Date : 31st Oct. 1979

Dr. Ito,

Further to the discussion with External Resources, External Resources informs me that they would like the deletion of para: 4 and 5 under Section (5) - Measures to be taken by Government of Sri Lanka. This is in page (4) of the document.

The External Resources wishes page 5 (vii) Claims Against Japanese Experts, replaced the following para:

"The Government of Sri Lanka shall indemnify the Govt. of Japan and its Agents as well as Japanese personnel employed in the project against any claims brought by 3rd parties in respect of liabilities resulting from operations under this memorandum, except where it is agreed between the Governments of Sri Lanka and Japan that such claims or liabilities arise from the gross negligence or wilful misconduct of such, agents or personnel".

Thanking you.

Yours faithfully,

Dr. S. D. M. Fernando  
Actg. D.I.S.

1. 国内旅費及び住きよの提供

該当個所をそれぞれ次のとおり修正する。

(1) 第5項 1. (4)

[THE TRANSPORT FACILITIES AND TRAVEL ALLOWANCE FOR JAPANESE EXPERTS TO BE PROVIDED ON THE SAME BASIS AS FOR COMPARATIVE GRADES IN THE DEPARTMENT OF HEALTH, SRI LANKA.]

(2) 第5項 1. (5)

[SRI LANKA GOVERNMENT WILL ASSIST JAPANESE EXPERTS TO OBTAIN SUITABLE ACCOMMODATION AND PAY AT THE RATES APPLICABLE TO COMPARABLE GRADES IN SRI LANKA.]

2. 免責条項(第7項)

我方の考え方及び先に合意した海外せい年協力隊派遣取極案に基づき次のとおり修正することに同意する。

[THE GOVERNMENT OF THE DEMOCRATIC SOCIALIST REPUBLIC OF SRI LANKA SHALL INDEMNIFY JAPANESE PERSONNEL AGAINST ANY CLAIMS BROUGHT IN RESPECT OF LIABILITIES RESULTING FROM OPERATIONS CONTEMPLATED HEREIN, EXCEPT WHERE IT IS AGREED BETWEEN THE GOVERNMENT OF THE DEMOCRATIC SOCIALIST REPUBLIC OF SRI LANKA AND JAPAN THAT SUCH CLAIMS ARISE FROM THE GROSS NEGLIGENCE OR WILFUL MISCONDUCT OF SUCH PERSONNEL.]

(了)

R000858-02

THE RECORD OF DISCUSSIONS BETWEEN THE JAPANESE  
IMPLEMENTATION SURVEY TEAM AND THE AUTHORITIES  
CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF THE DEMOCRATIC  
SOCIALIST REPUBLIC OF SRI LANKA ON THE JAPANESE  
TECHNICAL COOPERATION FOR THE PERADENIYA TEACHING  
HOSPITAL PROJECT

The Japanese Implementation Survey Team (hereinafter referred to as "the Team") organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as JICA) and headed by Dr. Rihachi Iizuka, Professor of Keio University, School of Medicine, visited the Democratic Socialist Republic of Sri Lanka from February 26, 1980 to February 29, 1980 for the purpose of working out the details of the technical cooperation programme concerning the Peradeniya Teaching Hospital Project in the Democratic Socialist Republic of Sri Lanka.

During its stay in the Democratic Socialist Republic of Sri Lanka, the Team exchanged views and had a series of discussions with the Sri Lanka authorities concerned in respect of the desirable measures to be taken by both Governments for the successful implementation of the above-mentioned Project.

As a result of the discussions, the Team and the Sri Lanka authorities concerned agreed to recommend to their respective Governments the matters referred to in the document attached hereto.

Colombo, Sri Lanka, 29 February 1980



(RIHACHI IIZUKA)

Head of the Japanese  
Implementation Survey Team



(B. C. PERERA)

Secretary Health

## THE ATTACHED DOCUMENT

### I. COOPERATION BETWEEN BOTH GOVERNMENTS

1. The Government of Japan and the Government of the Democratic Socialist Republic of Sri Lanka will cooperate with each other in implementing the Peradeniya Teaching Hospital Project (hereinafter referred to as "the Project") for the purpose of strengthening the functions of Teaching Hospital Peradeniya as a teaching hospital in order to improve the maternal and child health programme in the Democratic Socialist Republic of Sri Lanka, and thus contribute to the promotion of people's welfare in the Democratic Socialist Republic of Sri Lanka.
2. The Project will be implemented in accordance with the Master Plan which is given in Annex 1.

### II. DISPATCH OF JAPANESE EXPERTS

1. In accordance with the laws and regulations in force in Japan, the Government of Japan will take necessary measures through JICA to provide at its own expense services of the Japanese experts as listed in Annex II through the normal procedures under the Colombo Plan Technical Cooperation Scheme.
2. The Japanese experts referred to in I above and their families will be granted in the Democratic Socialist Republic of Sri Lanka the privileges, exemptions and benefits no less favourable than those accorded to experts of third countries working in the Democratic Socialist Republic of Sri Lanka under the Colombo Plan Technical Cooperation Scheme.



### III. PROVISION OF MACHINERY AND EQUIPMENT

1. In accordance with the laws and regulations in force in Japan, the Government of Japan will take necessary measures through JICA to provide at its own expense such machinery, equipment and materials necessary for the implementation of the Project as listed in Annex III, through the normal procedures under the Colombo Plan Technical Cooperation Scheme.
2. The articles referred to in I above will become the property of the Government of the Democratic Socialist Republic of Sri Lanka upon being delivered c.i.f. to the Sri Lanka Authorities concerned at the ports and/or airports of disembarkation, and will be utilized exclusively for the implementation of the Project in consultation with the Japanese experts referred to in Annex II.

### IV. TRAINING OF SRI LANKA PERSONNEL IN JAPAN

1. In accordance with the laws and regulations in force in Japan, the Government of Japan will take necessary measures through JICA to receive at its own expense the Sri Lanka personnel connected with the Project for technical training in Japan through the normal procedures under the Colombo Plan Technical Cooperation Scheme.
2. The Government of the Democratic Socialist Republic of Sri Lanka will take necessary measures to ensure that the knowledge and experience acquired by the Sri Lanka personnel from technical training in Japan will be utilized effectively for the implementation of the Project.

### V. MEASURES TO BE TAKEN BY THE GOVERNMENT OF THE DEMOCRATIC SOCIALIST REPUBLIC OF SRI LANKA

1. In accordance with the laws and regulations in force in the Democratic Socialist Republic of Sri Lanka, the Government of the Democratic Socialist Republic of Sri Lanka will take necessary measures to provide at its own expense;
  - (1) Services of the Sri Lanka counterpart personnel and administrative personnel as listed in Annex IV.
  - (2) Land, buildings and facilities as listed in Annex V;
  - (3) Supply or replacement of machinery, equipment, instruments, vehicles, tools, spare parts and any other materials necessary for the implementation of the Project other than those provided through JICA

under III above;

- (4) The transport facilities and travel allowance for the Japanese experts to be provided on the same basis as for comparative grades in the Department of Health, the Government of the Democratic Socialist Republic of Sri Lanka.
  - (5) The Government of the Democratic Socialist Republic of Sri Lanka will assist Japanese experts to obtain suitable accommodation and pay at the rates applicable to comparable grades in the Democratic Socialist Republic of Sri Lanka.
2. In accordance with the laws and regulations in force in the Democratic Socialist Republic of Sri Lanka, the Government of the Democratic Socialist Republic of Sri Lanka will take necessary measures to meet:
- (1) Expenses necessary for the transportation within the Democratic Socialist Republic of Sri Lanka of the articles referred to in III above as well as for the installation, operation and maintenance thereof;
  - (2) Customs, duties, internal taxes and any other charges, imposed in the Democratic Socialist Republic of Sri Lanka on the articles referred to in III above;
  - (3) All running expenses necessary for the implementation of the project.

#### VI. ADMINISTRATION OF THE PROJECT

1. The Japanese experts will give necessary technical guidance and advice to Sri Lanka staff associated with the Project pertaining to the implementation of the Project, and Sri Lanka authorities concerned will be responsible for the administrative and managerial matters pertaining to the Project.
2. For the successful implementation of the Project, the Coordinating Committee will be established with the members listed in Annex VI.

The functions of the Committee are as follows,

- (1) To formulate annual plan for the Project
- (2) To review the implementation of the Project
- (3) To advise the authorities concerned about the necessary matters for the implementation of the Project.

## VII. CLAIMS AGAINST JAPANESE EXPERTS

The Government of the Democratic Socialist Republic of Sri Lanka shall indemnify Japanese personnel against any claims brought in respect of liabilities resulting from operations contemplated herein, except where it is agreed between the Government of the Democratic Socialist Republic of Sri Lanka and Japan that such claims arise from the gross negligence or misconduct of such personnel.

#### VIII. MUTUAL CONSULTATION

There will be mutual consultation between the two Governments on any major issues arising from, or in connection with this Attached Document.

#### IX. TERM OF COOPERATION

The duration of the technical cooperation for the Project under this Attached Document will be four years from the date of signature.

## ANNEX I MASTER PLAN

### 1. Objective

The Project aims to contribute the upgrading of level of teaching staff of the Teaching Hospital Peradeniya through transfer of the technology in the field of pediatrics, obstetrics and gynaecology and to contribute the training of allied health personnel with main focus on the nursing staff in order to improve the function as a teaching hospital.

### 2. Implementation

Teaching Hospital Peradeniya has responsibilities for the implementation of the Project.

Ministry of Health will take necessary measures for the Project with the recommendation of the Coordinating Committee.

The Government of Japan will cooperate with the Government of the Democratic Socialist Republic of Sri Lanka in carrying out the Project through despatch of Japanese experts, acceptance of Sri Lanka personnel for training in Japan and provision of equipment.

### 3. Activities under the Project

Activities under the Project will include the following,

- (1) Application of medical electronics in the obstetric field in keeping with national requirements.
- (2) Development of examination for feto-placental functions in prenatal care.
- (3) Establishment of neonatal care.
- (4) Improvement of clinical laboratory techniques.
- (5) Development of neonatal surgery.

ANNEX II JAPANESE EXPERTS

Experts

in Pediatrics

in Obstetrics and Gynaecology

in Nursing

in Laboratory technology

in other fields necessary mutually agreed upon

Note : One of the Japanese experts will be nominated as Team Leader.

ANNEX III LIST OF THE ARTICLES

Machinery, equipment and others necessary for the Project mutually agreed upon.

ANNEX IV LIST OF SRI LANKA STAFF

1. Professor of Obstetrics and Gynaecology
2. Professor of Pediatrics
3. Consultant of Pediatric Surgery
4. Consultant of Obstetrics and Gynaecology
5. Consultant of Pediatrics
6. Medical Administrator
7. Professor of Clinical Pathology
8. Matron of Hospital
9. Sister in Obstetrics and Gynaecology Unit
10. Sister in Pediatrics
11. Other Personnel Necessary for the Implementation of the Project.



ANNEX V LIST OF LAND, BUILDINGS AND FACILITIES

Enough land, buildings and facilities to the implementation of the Project.

ANNEX VI COMPOSITION OF THE COORDINATING COMMITTEE

Chairman; Director, Health Service, Ministry of Health.

Sri Lanka Side	Japanese Side
Director, Postgraduate Institute of Medicine Ministry of Higher Education	Team Leader
Director, External Resources Division, Ministry of Finance and Planning	Experts
Dean, Faculty of Medicine, Medical Superintendent, Hospital	Representative of Japanese Supporting body. An official of Embass (observer)
Deputy Director, Medical Services Ministry of Health	
Prof., Obstetrics and Gynaecology	
Prof., Pediatrics	
Prof., Clinical Pathology	
Consultant, Obsterics and Gynaecology	
Consultant, Pediatrics	
Prof., Surgery	

専門家派遣・研修受入計画

The Peradeniya Teaching Hospital Project (Tentative)

February 1980

Fiscal Year	Trainee to receive ( 研修員受入 )	Exper to dispatch ( 専門家派遣 )
1980 (昭和56年度) 55.4.1 ~ 56.3.31	Dr Fernando (保健省次長) Director of the (ペラデニア教育病院長) Peradeniya Teaching Hospital (Observation tour-two weeks) Professor of Obstetrics and Gynaecology (産婦人科教授) Professor of Pediatrics (小児科教授)	Obstetrician (Gynaecologist) (産婦人科医) Pediatrician (小児科医) Nurse (看護婦)
1981 (昭和57年度) 56.4.1 ~ 57.3.31	Obstetrics and Gynaecology Consultant (産婦人科コンサルタント) Consultant of Pediatric Surgery (小児科コンサルタント) Matron or Sister of Obstetrics and Gynaecology (産婦人科看護婦長) Pediatrics Consultant (小児科コンサルタント)	Obstetrician (Gynaecologist) (産婦人科医) Pediatrician (小児科医) Laboratory Technician (臨床検査技師) Nurse (看護婦)
1982 (昭和58年度) 57.4.1 ~ 58.3.31	Professor of Clinical Pathology (病理学教授) Technician of Radiology (放射線技師) Nurse of Obstetrics and Gynaecology (産婦人科看護婦) Sister of Pediatrics (小児科看護婦長)	Obstetrics (Gynaecologist) (産婦人科医) Pediatrician (小児科医) Nurse (看護婦)
1983 (昭和59年度) 58.4.1 ~ 59.3.31	Technician of Laboratory (臨床検査技師) Nurse of Pediatrics (小児科看護婦)	Obstetrics (Gynaecologist) (産婦人科医) Pediatrician (小児科医) Laboratory Technician (臨床検査技術) Nurse (看護婦)

## Ⅵ 技 術 協 力

### 産 婦 人 科 部 門

#### I スリランカ国キャンディー地区の分娩管理の実状

スリランカ中央にある第二の都市（首都コロンボに次ぐ人口）キャンディー市には設立以来百年を越す Kandy General Hospital がある。

年平均 6,000 の分娩を取り扱っているがその生産件数は年々増加し、現状の Kandy General Hospital の収容能力には限界がきている。したがって合併症をもつ分娩、例えば妊娠中毒症、感染症、鉄欠乏性貧血の合併率は高く、それらの管理機能は未熟であるばかりでなく、長期入院の必要性に対しベッドの回転のキャパシティー不足は深刻である。一方、正常分娩は通常 2～3 日で退院させているが、妊娠管理としては予後を考えると適切ではなく、少なくとも 5 日間の入院態勢をもって産婦の Perinatal care を行なう指導をしたいものである。

故に、当地区に産科、新生児病院を設立することの重要性と意義を十分認めることは疑いない。そして Central Hospital として機能する高度な医療を施行可能な態勢を教育せねばならないと考える。

#### II 新病院への技術協力

年間 6,000 件を越える分娩件数に対し、周産死亡率は 30 以上ある。日本からの技術協力により、周産期管理を重点的に改善の必要があると考えた。

それには妊婦の胎盤機能のチェックと分娩時の胎児情報の取得と解析であろう。

前者に対しては母体尿中エストリオールを定期的に測定し、胎児胎盤機能をスクリーニングしていく方法がある。従来のキャンディーホスピタルの産科においてはこの胎児胎盤機能のチェックはなされていなかった。この方法論は簡易な方法であるのでその理論とデータの解説、検査方法論を指導し、臨床に応用するに大きな困難はない。一方本法は多数の妊婦をあつかう施設において、その中から胎児胎盤機能の異常者をスクリーニングするのに最適でペラデニア地区の産科管理には大きな意義を有すると思う。

後者（胎児情報の問題）に対しては Medical Electronics の導入である。妊娠診察での心音のチェックにトラウベを使用しているが、トラウベでは妊娠 6 カ月以降には児心音を確認可能だが、それ以前の聴取は困難である。妊娠前半期の妊娠の確徴を正確に診断し、意常妊娠の早期鑑別診断のために、ドプラー式児心音聴取法、超音波断層法による骨盤胎内の形態的变化、胎のう、児の心博確認を行い得る産科施設としたい。そして妊娠後半期から分娩に到る期間にもそれらは種々の点で重要な検査法として駆使可能。さらに分娩監視装置を取りつけ、Fetal distress（胎児仮死）の早期診断、早期対策への指針を日本からの技術協力で実現可能と思う。それらが周産期死亡率改善への対策である。

### Ⅲ 新病院での技術の問題点

#### 施 設

- (1) 分娩室に壁へのはめ込み式の柵，薬品入れがないために分娩室フロアーに種々の物入れが乱立する可能性がある。手術室にははめ込み式柵が完成している。
- (2) 分娩直前，あるいは重症妊娠のX線検査のためのポータブルX線撮影装置を備えてほしい。  
また子宮卵管像影に必要なイメージインテンシファイアーも検者のX線被爆を減少させるため，また診断を正確にするため必要と考える。
- (3) 日本からの技術指導員の室が必要である。技術指導の文献，データー，記録，日本との連絡等の書類保存と指導員の病院内での居住性確保を明確にしてもらいたい。

### Ⅳ 技協の方向と問題点

1977年3月末，在日スリランカ大使からわが国に対して，スリランカ大学医学部（ペラデニア）第二教育病院に対する協力要請がなされた。これをうけて事前調査と技術協力の計画をたてたわけであるが，スリランカ側の医療の背景を把握するとともに，わが国のプロジェクト方式技術協力制度を説明し，意義ある合意を求めねばならない。

それには次の問題点がいまだある。

- (1) スリランカ国保健省（Ministry of Health）と高等教育省（Ministry of Higher Education）大学（Peradeniya Campus）との間で教育病院に対する基本的考え方が異なり調整されていない。
- (2) 無償資金協力により建設中のペラデニア教育病院はキャンディー病院と同様，保健省の管轄下におかれるものと予測されるが保健省当局者には医学教育の充実・向上という同プロジェクト本来の主目的である教育病院としての使命よりも医療サービスに主眼を置いている（保健省が建物設計，機器選定を実施）。
- (3) 本教育病院において教育・研究を担当する教授およびそのスタッフは上記(2)を憂慮し，その運営において他の病院と異ったオートノミーを有した組織を希望している。
- (4) 調査団としては現地の教授等と(3)に関しては同意見であり，かかる方向に沿って受け入れ体制が少しでも整備されれば本件技術協力は大きな意義をもつであろう。

## 小 児 科 部 門

“はじめに”

JICA調査団の一員として Sri Lanka の Teaching Hospital for Women and Children (Peradeniya) (以下 TH と略す)、Kandy General Hospital (KGH と略す) 見学、当地の Medical staff との会議により得られた当地の事情について小児科医の立場として記す。

- (1) KGH の小児科、産婦人科部門が TH に移行するということであるので、簡単に KGH の小児科部門について述べてみる。KGH は約 1,200 床で Peradeniya 医学部の教育病院として利用されている。Superintendent の話しでは Cardiac Surgery を除いて全医療部門を備えているとの話しであった。小児科は約 200 床あり、必要によってはベッドの下にマットを置いて患者を収容すること。100 床ずつの大部屋であり、この他にジフテリア麻疹を収容する隔離室があり、見学当日は肝炎の子供が入室していた。疾病の大部分は Gastrointestinal Disease 特に Enteritis、次いで Bronchitis、Pneumonia やその他の感染症であるという。見学当日にも一つのベッド上で 2 人の子供が点滴療法を受けていた。疾病の種類について特に熱帯地方であり感染症が多いのは当然であるが、医師数も 100 人の患者に 4 人前後ということであれば慢性疾患及び高度の検査装置を使用する疾病の管理は困難のようである。この病院の年間分娩数は 6,000 ~ 9,000 で我国の大学病院の年間分娩数が 800、多くて 1,000 前後であることを考えれば極度に多い。Sri Lanka においては以前は自宅分娩が多かったというが最近では病院での分娩希望者が増加しており、益々 KGH の年間分娩数が増加する可能性がある。このような事情から分娩後正常分娩であれば母子共に 48-72 時間で退院せねばならないとのことであった。Sri Lanka の staff は少なくとも分娩後 7 日間は母子共に観察したいとの意見であったが、新生児は生後 72 時間前後から発症する疾病が多数あり特に熱帯地方であること、KGH の小児科部門に病的新生児を収容するスペースがないことを考えると、分娩後ある期間の観察と母親の教育が必要であろう。米国では分娩後 72 時間で退院する病院が多いようであるが、退院後の follow up が完全になされる設備があるからである。我国においても各病院に新生児期の疾病を専門に扱う病棟が充分にあるとは云えず、分娩後約 5-7 日間母子共に観察しているところが多いようである。KGH の新生児病児室は新生児ベッド(コット)が 3-4 個置くだけのスペースしかなく、環境温度、湿度を調節するのは窓を開放するか、小さな電気ヒーター(一個)を用いる以外には空調設備はなく、現在新生児を扱うために必要なインキュベーター、高圧酸素、高圧空気、吸引用の中央配管は全くない。又新生児の血液ガス分析を行う装置もなく、Medical staff はそれらに対する十分な知識を持ちながらも装置もなく、時間的にも所謂 Intensive Care を行うことは出来ないということである。KGH は年間 6,000-9,000 の分娩数があり、Sri Lanka の新生児死亡率は日本の 3 倍以上ということを考えれば、KGH 新生児病児室の僅か 3

— 4 床と現在の医師数では足りる筈もなく教育病院として現在の小児科学で急速な進歩がなされた新生児部門に現在の Neonatal Intensive Care Unit を導入することは急務であろう。

(2) Teaching Hospital for Women and Children (Peradeniya) (TH)

KGH の Pediatrics と OBG/ が移行するといわれる THP は極めて環境の良い場所に存在する。Pediatrics は 114 (Premature Nursery 6) であり、所謂大部屋は 58 床であり 6 つの部屋に区切られているが、6 つの部屋という意味ではなく床から腰のあたりまでの高さの壁があるだけのものです。当地の湿度環境からこの様にしないと室温が上昇してよくないとのことであり、当然ながら相互感染という観点から不利である。TH には Premature Nursery (6 床) 以外には新生児病児を専門に使用する病棟は作られていない。分娩後 72 時間以内に母子共に退院せねばならないとするならば乳幼児床の可成りのスペースを新生児専用を使用せねばならないこと。又、Premature Nursery を一応 Neonatal Intensive Care Unit として使用するとして TH の分娩数が KGH の分娩数と同数の年間分娩数とすれば、新生児死亡数が  $45/1,000$  (分娩) と仮定して TH では年間、270 - 405 人 (分娩数 6,000 - 9,000 として) の新生児が死亡するか死に類することになり、この病児が一応所謂 ICU に收容されるとすると一日約一人ずつ ICU に收容せねばならない。一応生存可能な新生児を治療の目的で ICU に收容するとして所謂 NICU と考えられる病床は膨大な数になる。参考までに本邦では年間分娩数 1,000 前後の病院の NICU 病床数は 5 - 10 床前後用意している。故に TH の Premature Nursery の病床数は少いこと、又、Intensive Care としての医療を行うためには呼吸管理が必要になるが、この病室には  $O_2$  と吸引用の中央配管のみがなされ、圧縮空気用の配管がなされていないので現在一般的な圧縮空気を必要とする Respirator を使用するには、この病室専用のコンプレッサーを使用せねばならないであろう。この病院は成人用の ICN が 5 床用意されている。ICN は本来集中看護室という意味であり、新生児から成人まですべての ICU を必要とする患者を收容するという設計思想により作られたようであるが、米国において NICU (Neonatal Intensive Care Unit) という言葉があるように成人の ICU と分離して考えているのは内容が可成り異なるため、成人も新生児も同時に診療し得る能力を持った医師がどこにでもいるわけではなく、看護面においても装置の面からも成人と新生児と同室に行くことは実際的には困難だからである。前述した如く TH の分娩数では Premature Nursery として病床は少なすぎることから Pediatric Surgery 部門の 30 床を使用する考へもあるが、NICU として使用するには配管の問題や構造の改良を行わねばならない。その他この病院は熱帯地方にあるわけで当然感染症の患者を扱うことが多いと思われるが、各病棟における手洗 (トイレではなく医師及び看護婦の手を滅菌するためのもの) が少い。特に Premature Nursery においてすら前室にのみ手洗があり、インキュベーターを置く室に手洗いが無い。Premature を扱う場合には感染症予防上頻回に手洗を必要するのでこのままでは Premature を收容し得ない。感染症予防の最も有効な手

段は医師及び看護婦の手を滅菌するということを忘れるべきでない。

(3) 今後の協力について

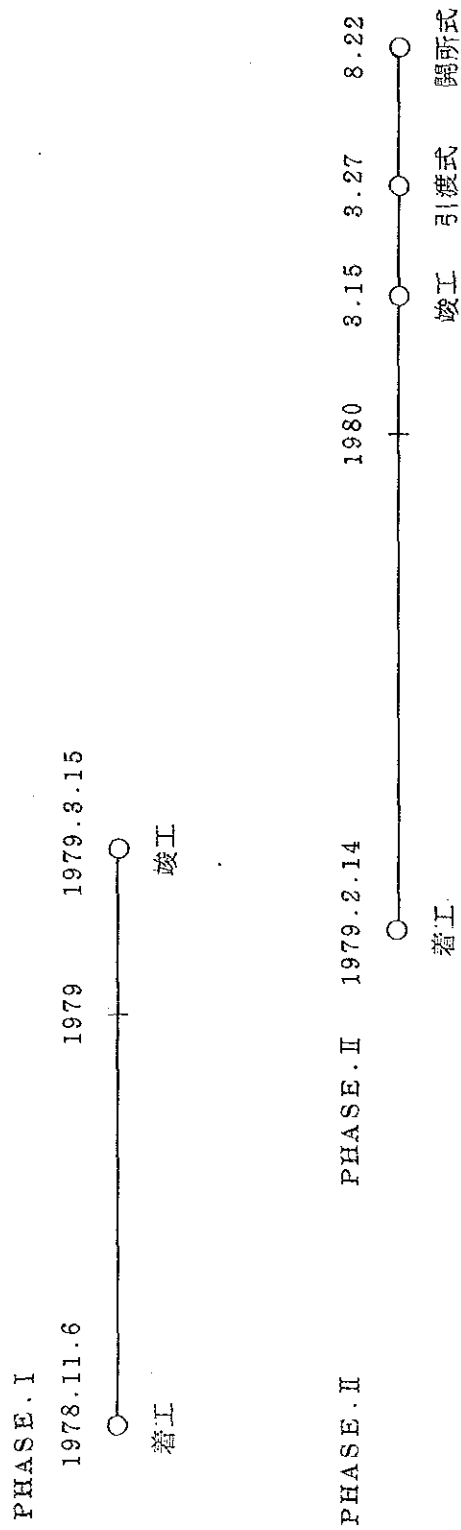
このTHは8月にOpenするR/Dでは小児科としてCare of Neonate ということであるが、in Keeping with National Requirment という条件であるので、この病院が使用されるようになってから種々の問題が出現すると思われ現時点での詳細は不明であるが、Care of Neonate ということは小児科のすべての分野が含まれているわけである。しかし、その中でも新生児医学の進歩の最大のものは新生児医学分野に Intensive Care が定着したことである。又、NICUにおいて行わねばならないことの中に Respiratory Care, Nutrition, Des Infection 等、小児科の分野において最も基本的な問題が含まれているので現在日本において行われているNICUの一部でも導入し得れば、教育病院として有用と思われNICU導入に必要な装置が設備されれば幸いである。



VI 資 料

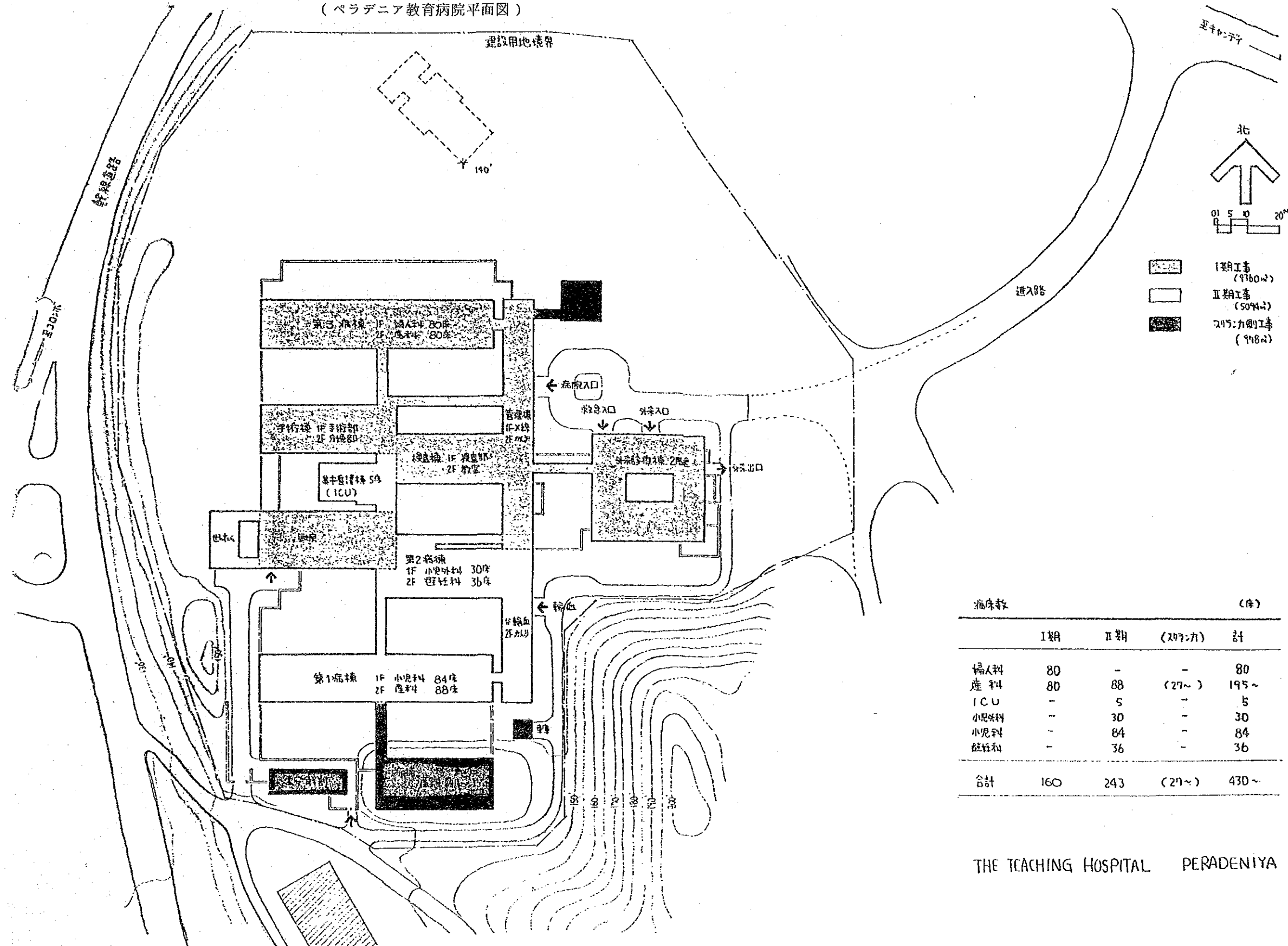
無償資金協力スケジュール

TEACHING HOSPITAL PERADENIYA





(ペラデニア教育病院平面図)



病床数	(床)			計
	Ⅰ期	Ⅱ期	(295:カ)	
婦人科	80	-	-	80
産科	80	88	(27~)	195~
ICU	-	5	-	5
小児科	-	30	-	30
小児科	-	84	-	84
産科	-	36	-	36
合計	160	243	(27~)	430~

THE TEACHING HOSPITAL PERADENIYA



1980 Allocation

Recurrent Expenditure

Head 154 - Ministry of Health Programme .....<sup>2</sup>.....  
 Division Teaching Hospital Peradenga Project .....<sup>3</sup>.....

Details of Object classes

(1) Object Code	(2) Object Title	(3) Items	(4) Object Details Rs	(5) Estimate 1980 Rs
01	Personal Emoluments			16.33.500.
(1)	Salaries		800.100.	
(2)	Overtime and Holiday Pay		6.500.(30.000).	
(3)	Uniforms Allowances		.....	
(4)	Allowances to Married Officer			135.000.
(5)	Special Allowance to Public Officers			372.000.
(6)	Additional Allowance of 10% of consolidated salary wage to Public Officers			80.000.
(7)	Supplementary allowance to Public Officers			148.500.
(8)	Other Allowances			91.400.
(1)	Pensionable Allowance		18.000.	
(2)	Non-Pensionable Allowance		600.(21.000).	
(3)	On call allowance to Pare Medical Personnel		900	
(4)	C.O.T.A-		66.000.	
(5)	Off Pay		8.000.	
(6)	Risk Allowance		.....	
(7)	Station Allowance		.....	
(8)	Office Allowance		.....	
(9)	Duty Allowance		.....	
(10)	Theatre Allowance		.....	
(11)	Clerical Allowance to Telephone Operators		.....	
(12)	Fees for Lecturers to Pupils and Trainees		.....	
(13)	Allowance to Medical Graduates Interns		.....	

Allocations 1980

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
		Rs	Rs	Rs
(14)	Allowance to Assistant Medical Practitioners Interns		.....	
(15)	Allowance to Pharmacists Interns		.....	
(16)	Allowance to Pupil Nurses		.....	
(17)	Allowance to Pupil Dental Nurses		.....	
(18)	Allowance to Pupil Midwives		.....	
(19)	Allowance to Medical Laboratory Technologists Trainees.			.....
(20)	Allowance to Radiographer Trainee			.....
(21)	Allowance to Physiotherapist Trainees			.....
(22)	Allowance to Public Health Learners			.....
(23)	Allowance to other category of Trainees and Pupils provided for separately			.....
(24)	Allowance to Part-time Labourers at School Dental clinics			.....
(25)	Overseas allowance to Officers on study leave			.....
(26)	Outfit allowance to Officers on Study leave Seminars etc. abroad			.....
(27)	Allowance to Personal of Red Cross Society, St. John's Ambulance Fire Brigade and Saukyadana movement			.....
(28)	Occupational Therapy (Wages of Patient-Labour)			.....
(29)	Allowance to Accountants for D. F.M.			.....
(30)	Entertainment Allowance to Minister			.....

Allocations 1980						
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)		
		Rs		Rs		Rs
(31)	Miscellaneous Allowance		500			
02	Travelling Expenses			4.000		
	(1) Travelling Expenses (Local)			3.000	(5.000)	
	(2) Change of Station Travelling Expenses (Local)			1.000	(30.000)	
	(3) Travelling Expenses (Overseas)					
03	Supplies and Requisites		1.580.000			
	(1) Stationery and Office Requisites			10.000		
	(2) Fuel and Lubricants			15.000		
	(3) Mechanical and Electrical Goods			20.000		
	(4) Medical Supplies					1.090.000
	1. Drugs		100.000			
	2. Dressings		300.000			
	3. X'Ray Films and X'Ray Chemicals		50.000			
	4. Surgical Requisites (Consumables)		40.000			
	5. Laboratory Chemicals					
	(6) Diets					300.000
	(7) Uniforms (Including Tailoring Charges)					40.000 (10.000)
	(8) Other		1.050.000			
	1. Insecticides and oil					
	2. Linen		80.000			
	3. Consumable Stores		20.000			
	4. Occupational Therapy (Raw Materials)					
	5. Materials for Health Education and Publicity			5.000		
	6. Sample under food and Drugs					

Allocations 1980

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
			Rs	Rs
04	Repair and Maintenance of Capital Assets.			
(1)	Repair and Maintenance of Vehicles, machinery and equipment			
	1. Office and Hospital Equipment		500.	
	2. Vehicles (including bicycles & Motor Launches)			1,000 (10,000).
05	Transportation Communication, Utility and other services		23,500.	
(1)	Transportation		7,000.	
(2)	Communication			
	1. Post and Telecommunication Services			
	2. Telephones Rental (Office Institutional and bungalow)			
(3)	Unility			70,000.
	1. Fuel and Lighting		20,000.	
	2. Water Supply		30,000.	
	3. Electric Current		20,000.	
(4)	Rental and hire Charges (Property Machinery and Equipment-not vehicles)			
(5)	Rates and Taxes (Contribution to Local Authorities in lieu of rates on State property)			5,000.
(6)	Other Services			10,000.
	1. Laundry		10,000.	
	2. Fees for Post-Licentiate Courses (Local & abroad)			
	3. Honararia to Blood Donors		2,000.	
	4. Conservation of Cemeteries			
	5. Expenses of Commission & Committees			



Allocations 1980					
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	
			Rs	Rs	Rs
	6.	Training of Assistant Medical Practitioners by Sri Lanka Medical College Council .....			
	7.	Training of Pharmacists by Sri Lanka Medical College Council .....			
	8.	University Staff for Assistance and services rendered to Sri Lanka Medical College Council .....			
	9.	Examination for Selection of Pupil and Trainees and recruitment of Officers (Local and abroad) .....			
	10.	Administration of prices Control Orders (Drugs) .....			
	11.	Burial of unclaimed .....			
	12.	Betel allowance to Indoor Leprosy Patients. ....			
	13.	Comprehensive Health man power survey power survey .....			
	14.	Sundries (Conservancy Advertisements, purchase of newspapers, copying fees of Court records and other unforeseen expenses .....			2.000
07	Grants Contribution and Subsidies .....				
	(1)	Subsidies			
	1.	Cost of Local Cereals Blending and distribution of Thripasha .....			
	2.	Local Administrative expenses of CARE and freight and handling abroad .....			
	(2)	Grants to non-public Institution/Private individuals (Allocation made separately under Head 154-2-13) .....			
	(3)	Contribution to Non-Financial Public Institution/other levels of Government. (Allocation made separately under Head 154-2-13)			

Allocations 1980						
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)		
			Rs		Rs	Rs
06	Contribution Subscription Membership Fees etc. to International and other Foreign Organizations		.....			
	1. Bureau of Hygiene and Tropical Diseases London		.....			
	2. W.H.O. for the year 1980		.....			
09	Others					.....
	Rebates payable to Estate Under the Medical Wants Ordinance (Cap. 226)		.....			
				Total		3.327.500.

Prepared by .....

Checked by .....

for Director of Health Services

Ministry of Health, P.O.Box 584, Finance Branch, Colombo



NURSING STAFF: (For Wards, Clinics, & O.P.D. etc.)

Section:	No. of Nursing Officers.		Ord. Labourers.	Conservancy Labourers.
1. Medical	Gr. 111.	01	16 Male	02 Female
	Gr. lv	24		
2. Surgical	Gr. 111	01	16 Male	02 Female
	Gr. lv	24		
3. Paediatrics	Gr. 111	01	16 Male	02 Female
	Gr. lv	24		
4. Maternity	Gr. 111	01	16 Male	02 Female
	Gr. lv	40	20 Midwives	
5. Psychiatry	Gr. 111	01	16 Male	02 Female
	Gr. lv	15		
6. Blood Bank	Gr. lv	04	05 Male	-
7. Milk Bank	Gr. lv	04	04 Male	-
8. O.T. & C.S.S.D.	Gr. 111	01	20 Male	02 Female
	Gr. lv	24		
9. O.P.D. & Clinics	Gr. lv	15	20 Male	-
10. I.C.U.	Gr. lv	15	10 Male	-

Summary: Nursing Officers Gr. 111: 06

Nursing Officers Gr. lv : 189

Minor Grades except O.P.D. & I.C.U.  
for Wards:

Male Labourers 129

Female Conservancy Labrs. 12

*J. Sengupta*  
15/2/20

3. CLERICAL AND OTHER GRADES :

1. Accountant
2. Clerks (Additional) Establishment work : 2  
Credit council : 2  
Administration : 2  
Accounts : 2  
O.P.D. : 5  
Ward Clerks : 5
3. Overseers
4. Telephone operators : 3
5. Ambulance Driver : 1
6. Lorry Driver : 1
7. Cara Jeep Drivers : 2
8. Linen Collectors : 4
9. Binders : 1
10. Office Orderlys : 3

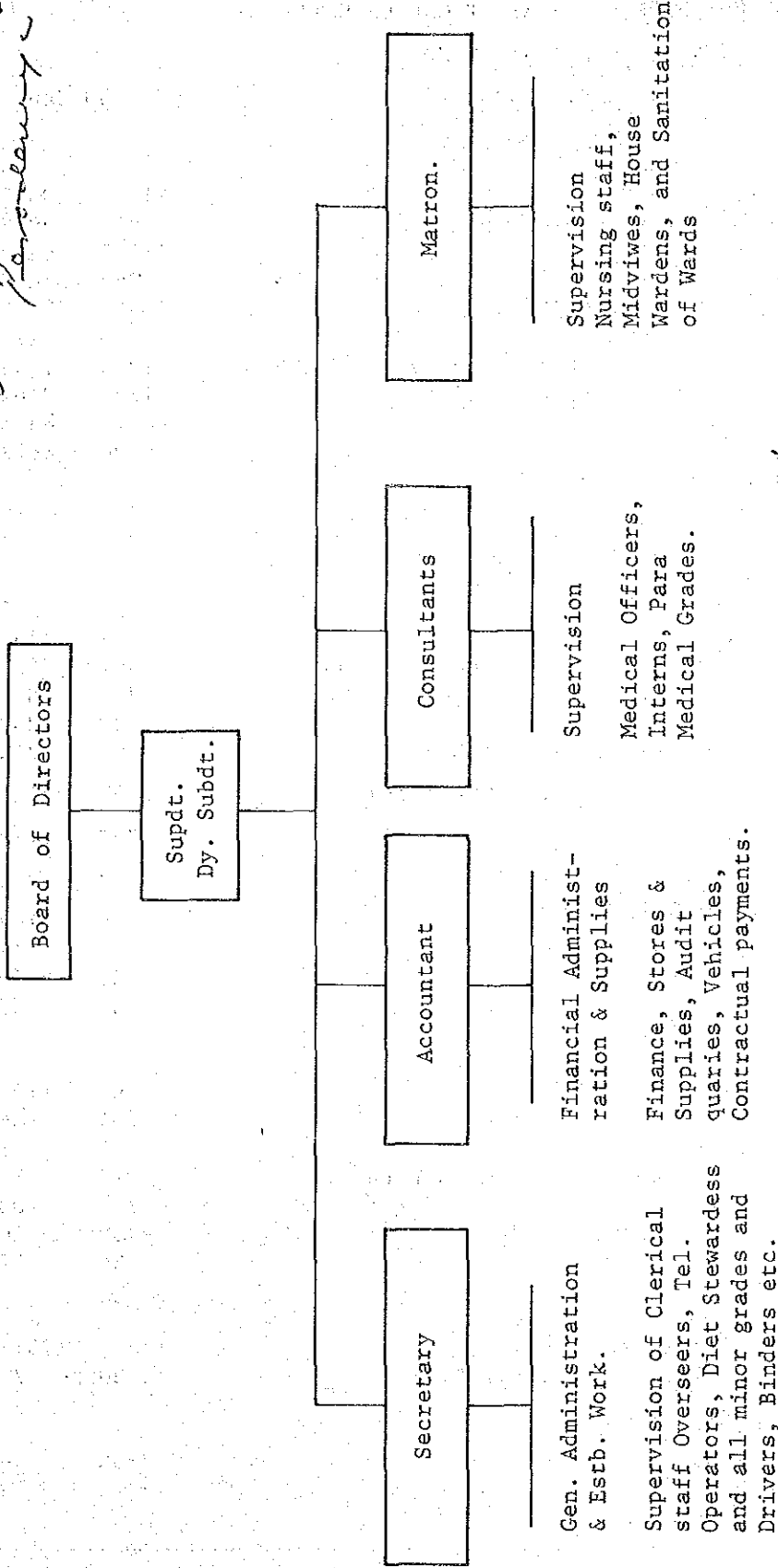
4. MINOR GRADES :

1. Labouers for Garden work et. 20
2. Conservncy labourers 20
3. Cooks 06
4. Lebourers for laundry 10
5. Watchers. 05

*E/S*  
*Surp. Hd.*

(病院組織図)

*Teaching Hospital  
Parerolaryi*



*Pharmacy*

25/3/80

MONTHLY HOSPITAL STATISTICAL BULLETIN

GENERAL HOSPITAL, KANDY

JANUARY, 1980

Jan.80 Jan.79

OUT-PATIENT SERVICE

No. of first visits O.P.D.	21290	29525
No. of subsequent visits	7841	9918
Total No. of out-patients	29151	39443
Total No. of all clinics	27288	27629
GRAND TOTAL OF OPD AND ALL CLINICS	56439	67072
Daily average out-patients	940	1272
"                    "            (Excl. Sun days & P.H.H.)	1214	1643
"                    "            (Incl. Clinics)	1821	2164
Total No. of dressings	6474	6375
No. of injections	6996	6872
Total No. of minor operations	26	28
Total No. of deaths (O.P.D.)	8	10

(A) IN-PATIENT SERVICE

Bed complement	1336	1297
Total No. of patients admitted	7119	7731
"                    "            discharges (Incl. Deaths)	6467	7428
No. of patients remaining at the end of month	1874	1876
Daily average admissions	230	249
"                    discharges (Incl. Deaths)	209	240

(B) TOTAL DAYS OF CARE TO PTS. DISCHARGED (Incl. Death)

Average daily sick	1767	1713
--------------------	------	------

(C) TOTAL DEATHS (Excl. O.P.D. Deaths)

Under 48 hours	88	103
Over 48 hours	95	112
Death rate	2.82	2.89
Still births	32	37

(D) MATERNITY SERVICES

No. of maternity patients admitted	997	1197
"                    delivered	704	834
No. of maternal deaths	1	3
Total deaths among infants borin in hospital	13	13
No. of immature births	216	200
No. of deaths among immature babies	19	10
Total live births	686	797

(E) LABORATORY SERVICES

Total No. of examinations	15215	17512
No. of examinations per day per M.L.T.	30	27

(F) AUXILLIARY SERVICES

No. of patients X'rayed	3988	-
No. of X'rays taken	5776	-
Routine X'ray examinations		

	<u>Jan. 80</u>	<u>Jan. 79</u>
(G) <u>ELECTRO ENCEPHALOGRAPHY SERVICES</u>		
No. of ward patients	48	-
No. of clinic patients	46	-
No. of outside patients	6	-
Total No. of patients	100	
(H) <u>PHYSIOTHERAPY SERVICE</u>		
No. of first visits	349	-
No. of subsequent visits	1162	-
Total no. of visits	1511	-
No. of ward visits	177	-
No. of clinics held	24	
Average per clinics	62	-
(I) <u>RHEUMATOLOGY AND REHABILITATION SERVICE</u>		
No. of first visits	198	-
No. of subsequent visits	244	-
Total No. of visits	442	-
No. of Clinics held	12	-
Average per clinic	36	-
(J) <u>MEDICOLEGAL SERVICE</u>		
Total No. of judicial post-mortems	8	-
Total No. of inquests held	58	-
(K) <u>PUBLIC HEALTH SERVICES</u>		
No. of cases notified	95	128
Immunizations:-		
B.C.G. Vaccinations (infants)	629	719
Triple.                   "	226	289
Polio vaccinations	316	234
Cholera inoculations	236	265
Ante-Typhoid	1329	1248
Tetanus toxoid (Expectant mothers)	95	497
"                   all others	1022	1154
Ante-rabies vaccinations (persons)	43	21
"                   No. of doses given	621	177
Ante-smallpox vaccinations	339	252

CLINICS

(1) <u>MEDICAL CLINIC</u>		
Total No. of visits	3625	3502
No. of clinics held	38	42
Average per clinic	95	83
(2) <u>SURGICAL CLINIC</u>		
Total No. of visits	4257	3699
No. of clinics held	37	34
Average per clinic	115	109
(3) <u>ORTHOPAEDIC CLINIC</u>		
Total No. of visits	661	619



	Jan.80	Jan.79
No. of clinics held	18	19
Average per clinic	37	33
(4) <u>NEURO-SURGICAL CLINIC</u>		
Total No. of visits	192	351
No. of clinics held	7	9
Average per clinic	28	40
(5) <u>E.N.T. CLINIC</u>		
Total No. of visits	1556	1441
No. of clinics held	24	22
Average per clinic	65	66
(6) <u>GENITO-URINARY CLINIC</u>		
Total No. of visits	372	1520
No. of clinics held	9	26
Average per clinic	41	58
(7) <u>SKIN CLINIC</u>		
Total No. of visits	1039	709
No. of clinics held	16	13
Average per clinic	65	55
(8) <u>PAEDIATRIC CLINIC</u>		
Total No. of visits	1099	1216
No. of clinics held	11	13
Average per clinic	99	94
(9) <u>EPILEPTIC CLINIC</u>		
Total No. of visits	938	267
No. of clinics held	5	4
Average per clinic	187	217
(10) <u>PSYCHIATRIC CLINIC</u>		
Total No. of visits	2359	2161
No. of clinics held	20	22
Average per clinic	118	98
(11) <u>ANTE-NATAL CLINIC</u>		
Total No. of visits	693	1389
No. of clinics held	13	13
Average per clinic	53	506
(12) <u>POST-NATAL CLINIC</u>		
Total No. of visits	72	46
No. of clinics held	5	8
Average per clinic	14	6
(13) <u>BABY CLINIC</u>		
Total No. of visits	313	631
No. of clinics held	12	12
Average per clinic	26	53

		<u>Jan. 80</u>	<u>Jan. 79</u>
(14)	<u>GYNAECOLOGICAL CLINIC</u>		
	Total No. of visits	591	744
	No. of clinics held	11	13
	Average per clinic	54	57
(15)	<u>FAMILY PLANNING CLINIC</u>		
	Total No. of visits	274	257
	No. of clinics held	26	18
	Average per clinic	11	14
(16)	<u>EYE CLINIC</u>		
	Total No. of visits	1716	2075
	No. of clinics held	25	22
	Average per clinic	69	94
(17)	<u>DENTAL CLINIC</u>		
	Total No. of visits	4076	4016
	No. of clinics held	25	27
	Average per clinic	163	149
(18)	<u>CANCER CLINIC</u>		
	Total No. of visits	425	-
	No. of clinics held	26	-
	Average per clinic	16	-
(19)	<u>V.P., O.P.D.</u>		
	Total No. of visits	1562	1327
	No. of clinics held	27	26
	Average per clinic	58	51
(20)	<u>DIABETIC CLINIC</u>		
	Total No. of visits	476	479
	No. of clinics held	4	4
	Average per clinic	119	126
(21)	<u>NERVE CLINIC</u>		
	Total No. of visits	392	326
	No. of clinics held	5	9
	Average per clinic	78	36
(22)	<u>V.D. CLINIC</u>		
	Total No. of visits	301	254
	No. of clinics held	7	9
	Average per clinic	3	28

WARD STATISTICS

<u>Wd. No.</u>	<u>Admis- sions</u>	<u>Disch- arges</u>	<u>Deaths</u>	<u>Wd. No.</u>	<u>Admis- sions</u>	<u>Disch- arges</u>	<u>Deaths</u>
1.	293	243	13	23	91	73	1
2.	299	233	12	24,25	31	35	0
3.	34	44	0	26	3	2	0
4.	114	99	1	27	-	28	0
5.	0	24	18	28	304	195	10
6.	970	943	0	29	302	257	10
7.	523	422	0	30	314	238	11
8.	98	43	39	31	295	196	5
9.	325	347	5	32	-	-	- Not submitted
10.	347	298	7	33	238	192	5
11.	318	290	4	34	207	180	4
12.	283	253	2	35	219	80	5
13.	1	21	3	36	256	206	4
14.	27	33	0	37	10	15	0
15.	45	47	0	38	18	14	0
16.	220	191	5	39	22	46	0
17.	216	184	4	40	26	44	0
18.	238	180	1	41-45	12	27	0
19.	228	184	5	46	41	42	0
20.	0	0	0	47	83	55	4
21.	118	96	0	48	40	30	5
22.	118	127	0				

OPERATIONS STATISTICS January, 1980

GYNAECOLOGY	TOTAL	279	EYE + TOTAL	230
OBSTETRIC	"	111	ORTHOPAEDIC TOTAL	21
SURGICAL	"	1118	E. N. T. TOTAL	90
L. R. T.	"	121	UROLOGY "	32

CAUSN OF DEATHS - CLASSIFIED, January, 1980

Pulmonary T. B.	4	Other acute upper respiratory infection	1
Others T. B.	3		
Tetanus	5	Other diseases of the Respiratory system	2
" Neonatorum	1	Ulcer of stomach and duodenum	1
Septicaemia	3	Chronic liver diseases and cirrhosis	10
Malig. Neoplasm-Oesphagus	2	Spino Bifida & Hydrocephalus	2
" " Colon	1	Conginetal anomalies of heart and circulatory system	8
" " Pancreas	2	Immaturity	25
" " Other illdefined sites	5	Birth asphyxia	6
Leukaemia	2	Asthma Emphysema	2
Diabetic Mellitus	2	Other diseases of the digestive system	9
Malnutrition	4	" urinary system	4
Anaemias	2	Acute Bronchitis	1
Meningitis	4	Other diseases of the pulmonary circulatory	2
Encephalitis	3	Other intra-crannial & internal injuries	2
Chronic Rheumatic fever and heart diseases	1	Nephritis and Nephrosis	2
Acute Myocardial infarction	5	Other diseases of the female genital organs	1
Other diseases of the nervous system	4	Other conginetal anomalies	2
Other Ischaemic heart diseases	2	Fractures	2
Crebro vascular diseases	6	Burns	5
Other diseases of the Circulatory system	2	Other viral diseases	1
Pneumonia and Broncho-pneumonia	8	Undiagnosed	19
Malig. Neoplasm of Bronchus	3	Other poisoning and toxic effects	6
Hodgkins disease	1		
Other diseases of the blood forming organs	1		

*[Signature]*  
 Medical Records Officer,  
 General Hospital, Kandy,  
 22nd February, 1980

*[Signature]*  
 Medical Superintendent.



JICA